

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 10 月 24 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	柴田翔平

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
新潟県妙高高原
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 9 月 26 日 ~ 平成 30 年 9 月 29 日 (4 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
静岡大学 杉山茂 PWS 特任准教授 京都大学 高等研究院 松澤哲郎 特別教授
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
<p>本実習は新潟県妙高高原笹ヶ峰にて、登山やロープワーク、ビバーク等フィールドワークに必要な技術を身につけることを目的として行われた。</p> <p>スケジュール 9/26 笹ヶ峰へ移動、実習に関する説明、ヒュッテ周辺の散策 9/27 ヒュッテ周辺の散策、ドローン実習 9/28 火打山登山、ロープワーク講習、ビバーク講習 9/29 スキー講習、清掃、地獄谷見学、帰宅</p> <p>初日と二日目は、ヒュッテ周辺を散策しながら、そこに生息している動植物に関する説明を受けた。自生している植物の中には、食べる事のできる果実をつけるものもあったが、自分が今まで見たこともない木の実がほとんどであった。近隣住民はそれらの木の实やその他の山菜を日常的に採集して食べているらしく、自分がいかに日本の植物や野草について無知であるかを思い知らされた。二日目には幸運にも野生のニホンザルを見る事が出来た。ドローン実習では、ドローンの基本的な操作方法に加えて、使用上の注意点、ドローンに関わる法律について教わった。今のところは今後自身の調査でドローンを使用する予定はないが、新しい技術やそれに関わる国の法整備に関して知る貴重な機会であった。</p> <p>三日目は、早朝から雨が降ったり止んだりを繰り返しており、厳しい寒さの中での登山となった。それでも、晴れた時に見える登山道からの景色はとても美しかった。朝 8 時半ごろから本格的に雨が降り出し、気温が一気に下がったこともあり登山は中断となった。頂上まで登る事ができなかったのは残念であったが、目的の途中でも冷静に考え、安全を最重要事項として決断する事の大切さを改めて学んだ。今後のフィールドワークにおいても、今回のこの経験を忘れないようにしたい。</p> <p>個人的には、毎日参加者と教員で協力して作る食事が大きな楽しみであった。寒い山の中で温かい食事を食べる時間は、至福の時であり、明日への大きな活力であった。</p> <p>今回の実習では登頂からの景色を見る事ができず、心残りではあるが、積雪期の実習に参加することで、冬山の今回とはまた違った魅力を存分に味わうことができればと思う。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真.1 ヒュッテ周辺の散策



写真.2 ヒョウモンチョウの1種



写真.3 野生のニホンザル



写真.4 ドローン講習

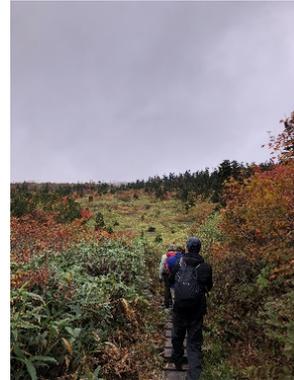


写真.5 登山道中



写真.6 登山道からの景色と共に



写真.7 温泉の中を泳ぐニホンザル



写真.8 新鮮な食材を使ったパエリア

## 6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて行われました。杉山准教授、松澤教授、福島特定助教、他の実習参加者のみなさまに感謝申し上げます。